2020 50th Anniversary

Worldea

追跡!! 動き出した「ワールディア・プロジェクト」

【特集2】ワールディアに迫る

Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG
福祉とデザイン
松永結実

NUA-Student
芸術学部　芸術学科　音楽領域
ポップス・ロック&パフォーマンスコース３年
橘川宗明

News/Topics
ニュース&トピックス

大学総合
■ 2019年度
「名古屋芸術大学入学式」が行われました
■ 平成30年度　デンバー大学
短期英語語学研修を実施しました
■ 名古屋芸術大学　新入生歓迎会を行いました

音楽領域
■ 声優アクティングコースの
福満薫先生と伊相遼さん・塩澤美響さんが
取材されました

デザイン領域
■ テキスタイルデザインコース
名古屋タカシマヤの「布仕事マルシェ」に出店しました

名古屋芸大グループ校特集
学校法人名古屋自由学院
滝子幼稚園

Master Athlete
マスターアスリート
自分から動く
人間発達学部　子ども発達学科　講師
堀場みのり

Information
インフォメーション
■ 出版
■ 2019年度オープンキャンパス日程
■ 2019年度音楽領域演奏会スケジュール（予定）
■ アート&デザインセンター
2019年度展覧会スケジュール（予定）

名古屋芸大グループ通信

48
July
2019

"ハート"がすべてだ

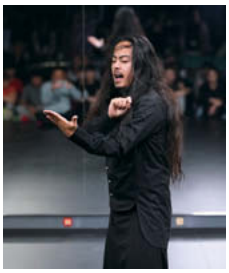
KENTO MORI

Feature

【特集1】
ダンスパフォーマンスコース
特別客員教授 ケント・モリ氏による特別講義を開催

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS
名古屋芸術大学グループ
http://www.nua.ac.jp

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科　美術研究科　デザイン研究科　人間発達学研究科
学部学科：芸術学部　芸術学科　音楽領域　デザイン領域　美術領域　芸術教養領域　人間発達学部　子ども発達学科
■名古屋芸術大学保育専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園　■たきこ幼児園
■愛知保育園　■名古屋音楽学校

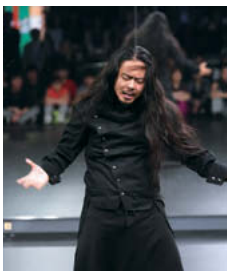


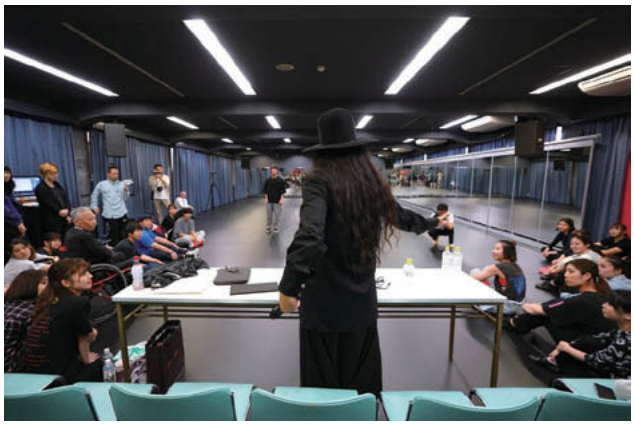
〝ハート〟がすべてだ

Feature

【特集1】ダンスパフォーマンスコース 特別客員教授 ケント・モリ氏による特別講義を開催

KENTO MORI





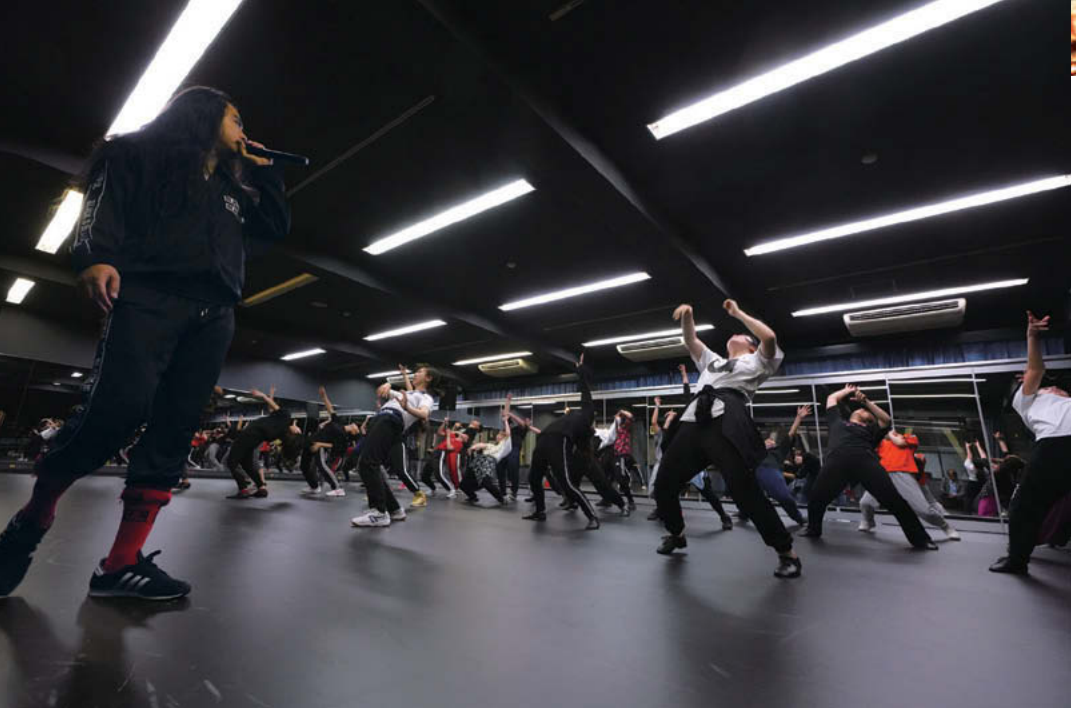
GW明けの5月9日、ダンスパフォーマンスコース 特別客員教授 ケント・モリ氏が来学され、特別講義が行われました。ケント・モリ氏は、愛知県の出身。講義の前に伺ったお話では、「愛知は自分にとって地元といえる場所。東京や大阪といった都会ではない場所からでも自分はダンサーとして世界を巡ってきた。どんな場所からでも、ハートさえあれば必ずできる。このことを自分自身が実証しており、次なる若い世代ならもっともっと超えられるはず。学生のみなさんにとっても、自分自身にとっても、今日の講義は素晴らしいチャンスになる」と力強い言葉をいただきました。

特別講義は、ダンスパフォーマンスコース、ミュージカルコースの学生が受講。まずは、全員がケント氏に自分のパフォーマンスを見てもらうことから始まりました。腰を下ろし見守るケント氏を前に、学生たちは臆することなく、それぞれ元気いっぱいのダンスと歌を披露しました。パフォーマンスに対してケント氏は、それぞれの試みを高く評価し、「ダンスもコミュニケーションと同じで、相手に伝えたいことをしっかりと伝えること」「伝えるための技術として、指先まで神経を使い、抑揚をつけたり、タイミングをずらしたりすることで見る人の視線を見せたい場所へ集めることができる」など、ひとりひとりに熱心にアドバイスを与えてくれました。

学生たちのパフォーマンスにケント氏も大いに発奮した様子で、お礼のパフォーマンスを披露してくれました。目が離せなくなるような一挙手一投足、すごみを感じさせる魅せるダンスに、講義は大いに盛り上がりました。

その後、ケント氏は学生たちと一緒にウォーミングアップ。ケント氏オリジナルの楽曲で、身体を動かします。まるでライブコンサートのような楽しさで、学生たちも息を弾ませます。そして、ケント氏は、未公開の妖怪をモチーフとしたオリジナルの楽曲を用意、学生たちに自由にゾンビを表現するよう指示を出し、振り付けを始めました。学生たちは、1時間ほどかけて、しっかりと振り付けを覚え、それぞれが自由にゾンビをダンスで表現しました。通しでは、2つのチームに分かれて、それぞれのダンスを観察し人の動きを確認し、ひとつひとつの動きを大切にするように説明します。

講義を通して印象に残ったのは、学生たちの、まだ未熟なダンスであっても、個性と面白い部分を見いだして高く評価し、学生たちの可能性を広げようとするケント氏の姿勢。さらに、学生の反応に感化されてケント氏が動く、それにまた学生が感化されて…と、相乗効果で全体が高まっていく様子には感銘を受けました。



ケント・モリ

KENTO MORI

音楽領域
ダンスパフォーマンスコース
特別客員教授

–大学の客員教授、どんなふうにお感じですか?

とてもうれしいです。ワクワクしてます。学生のみなさんには、この機会を最大限に生かして欲しいなと考えています。今、僕がこういう立場にいますが、若い人たちにはもっと大きな可能性があります。次の世代なら、僕ができたことよりももっと超えたことができるようになると思います。こうして大学で教えることができるのは、学生のみなさんにも僕自身にとっても素晴らしいチャンスで、とても光栄に感じています。

–自分が思っていることを実現して叶える。そこで大事なことはどんなことですか?

クサい文句かもしれませんが、"ハート"ですね。ハート以外、ありません。表面的なテクニックはメッキと同じで剥がれてしまうものですが、内に秘めるハートはそうではありません。ハートひとつで、人間、どんなことでもできます。僕のいるエンターテインメントの世界では、何がいつどうなるかわかりません。誰かが保証してくれるわけではありません。常に真剣勝負、僕はそういうつもりでいます。

–上手くいかないときなど、どうやって乗り越えましたか?

やっぱりハートですね。男たるもの、やると決めたことはやりきる、それだけです。熱い思い、これ以外にありません。人生のレールを誰かが敷いてくれるわけではない

ダンスの後は、大アンサンブル室での公開講座となりました。1時間ほど、ケント氏に自由に質問し、そのことについてディスカッションするという形式で行われました。始めにケント氏から、「今、この瞬間をできるだけ有効に活用して一緒に何かを作り出そう。この時間を一緒にものにしよう」と宣言がありました。ダンスを始めたきっかけに始まり、上手くいかないときはどうするか、やめたくなったときはあるか、自分のスタイルをどうやって見つけたか、がむしゃらにやってきたか、それともコツコツか、などなど、学生からいくつもの質問が出されました。質問のひとつひとつに丁寧に答えながら、壁に当たったとき、やめたくなるようなときには幅広く考えや見方を変えること、ダンスに絶対的な答えはなく、自分が良いと思ったことを追求すればいいこと、そうして人真似や人の評価に頼るのではなく、自分自身のダンスのスタイルを作り上げていくことが大事だと説きます。見えていることだけがすべてではなく、感じることや気持ちを表現することが重要だと話しました。また、「こうでなければならないというものはなく、自分だけのかたちを追求していって欲しい。そのためにできることがあれば、今すぐ始めるべき」と強く訴えました。熱の入ったケント氏の言葉に、学生たちからも多くの意見が出され、非常に有意義な講義となりました。

ですし、誰かが最後まで面倒を見てくれるわけではありません。最後は自分です。ダンスに限らず、作品を創るというとき、誰かがこう描いてるから、こういうものがあるから真似すればいいというものではないですよね。最終的には自分で決めて、自分で創っていく。それと同じことだと思います。自分でやりきる、その思い、それを一言でいうと心、つまりハートでしかないですよね。

–アートについてお考えを教えて下さい

ダンスや音楽、もっと広くアートに対して、一番魅力に感じている部分は、言葉や時代を超えてしまうことです。クラシック音楽など100年も前のメロディーが奏でられると、その曲が作られた当時の雰囲気を感じ、当時聴いていた人が感じたことと同じことを感じることができます。アートは、時代を超え、言葉を超えて、そのときのフィーリングや思いを伝えてくれます。ものすごいパワーです。しかも、そのアートを見たり、聴いたりしている人が同じ気持ちでひとつになっています。その瞬間、皆同じ気持ちでいて、喧嘩したり、いがみ合ったりすることなく、人間として存在しています。それを感じさせてくれるのがアートだと思います。ダンスも音楽も美術も、同じですよね。地球のどこにいても素晴らしいものは素晴らしく、みんなにチャンスがあって、何か表現したものは必ず海を越えて伝わると思います。僕自身、この大学でやることにすごく可能性を感じています。本当にシンプルに、学生たちが盛り上がってくれたらなと期待しています。ダンスだけでなくいろいろな創造物が、何の壁もなく世界につながって広がっていってくれればいいなと思っています。そういうことのできる若い人たちに、どんどん出てきて欲しいですね。

【特集2】

追跡!! 動き出した「ワールディア・プロジェクト」

Feature

なにがはじまる？

英語だけじゃない！

この春からキャンパスに大きく掲示されるようになったWorldea（ワールディア）のポスター。東西キャンパスとも学校に来た瞬間、巨大なポスターが目に飛び込んできます。ワールド？ 英語やらされるの～？ なんて声が学生から聞こえてきそうですが、Worldea プロジェクトは単なる英語力強化のプロジェクトではありません。特集では、このWorldea プロジェクト、どんなことになっていくのか、それぞれの領域のキーマンになりそうな先生方にお話を伺ってみました。

Worldeaって「？」

Worldeaとは、「World（ワールド）」と「Idea（アイデア）」の造語、Worldクラスの Ideaを自分のものにすることを目指す教育プログラムと説明されますが、具体的にどんなことを意味していることなのかよくわからないというのが実情ではないでしょうか？ Worldeaについて具体的にする前に、その背景について説明しましょう。

本学では、BORDERLESSとして領域の壁をなくし、「音楽」「美術」「デザイン」「芸術教養」の4領域を融合的に捉え、新たな価値を創造することができるような新たな枠組みを作り、横断的に学ぶことのできるカリキュラムを拡充してきました。これらの教育改革を行う中、社会の変化や専攻各分野において対応すべき問題が顕在化してきました。

一つは、英語教育の必要性です。産業界では世界規模での競争が始まり、自動車産業をはじめとするほとんどの産業においてグローバリゼーションに対応しなければいけなくなったことは誰もが知るところです。以前よりも海外が身近になり、海外へ行くことも、また、海外から日本へやって来る人も大きく増えました。芸術、デザイン、音楽、どの分野においても、英語でコミュニケーションすることや英語を使って海外へ向けて情報発信することは、日本の経済規模が縮小する状況下、非常に重要なことになってきたといえます。海外へ留学したり、海外の企業へ勤めたいという場合でなくても、英語を使うことの必然性は大きく高まりました。これらに対応するため用意されたのが「グローバル」セクションです。

もう一つは、専門領域の動きです。領域の壁をなくすことで、新しい価値を創造することに目を向けることになりましたが、一方で専門分野でのより深い学びが求められることになりました。とりわけクラシック音楽、ファインアートといった領域では、これまでよりも深化した学びの機会の提供が非常に大切となりました。そのため、より質の高い学習の機会や方法を模索し、レベルの高い教員を招へいする動きが始まりました。これが「アート/エデュケーション」セクションへとつながりました。

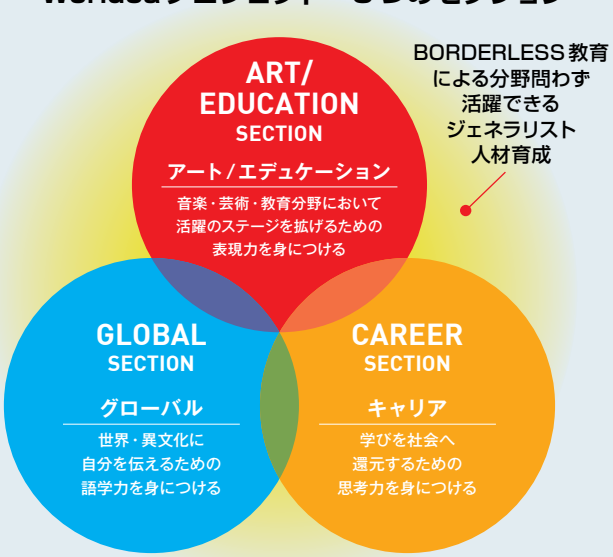
さらに近年では、大学の費用対効果が厳しく問われるように社会が変化してきました。これまで芸術大学という組織は、創造的な能力に優れた人材の育成に重点が置かれていました。しかし、社会や価値観の多様化、また、長く続く低成長期の時代の要望もあり、創造的な職業に就く人であっても、大学卒業後、安定して社会・企業に役立つ知識や技術、社会性の修得が望まれるようになってきました。卒業後、専門性を生かした進路に進む場合は当然ですが、価値観の多様化や経済的な事情からクリエイターにならない進路を選択する場合もあり、そのための手当ても芸術大学の教育に求められるようになりました。これらの変化を踏まえて考えられたのが、「キャリア」セクションです。

Worldeaプロジェクトは、これら「グローバル」、「アート/エデュケーション」、「キャリア」の3つのセクションで構成されており、これらに呼応する形で、しかも、それぞれ個別の役割を一元的に見えるようにするための枠組みです。

3つのセクションのうち「アート/エデュケーション」に関しては、過去において個別に教授指導で行われてきたようなところがあります。個人的なコネクションを使い、海外研究機関への留学や特定の企業とのワークショップやインターンシップなどが行われてきました。しかし、これらはあくまでも特定の講師の個人的なコネクションを活用して行われてきたことであり、その講師の異動や状況の変化などにより、取り組みが途絶えてしまうようなことが起こっていました。こうした取り組みをWorldeaという枠組みに取り込むことで、属人性を軽減することにつながり、大学組織としての取り組みへと転換させることで継続的に実施されるという期待もあります。

Worldeaは、BORDERLESSとして始まった大学改革をさらに推し進め、学生の要望に応えつつ学生の能力や価値をさらに高め、教育の質をさらに向上させるためのプログラムなのです。

Worldeaプロジェクト　3つのセクション



Worldeaプロジェクト　セッション別取り組み概要

	オナーズ	大学全体	成果の可視化
アート/エデュケーション セクション	■有名講師による マンツーマンレッスンカリキュラム（芸術学部） ■保育・芸術文化を学ぶ海外研修（人間発達学部）	■有名講師による公開講座 ■全学総合共通科目（アートプロジェクトなど）	■アート・音楽分野での各種受賞歴 ■進学実績、海外留学実績
グローバル セクション	■英語コミュニケーション ■プレゼン・ディスカッション ■特別講座 ■留学（ブライトン・デンバー／学術交流協定校ほか）	■英会話ラウンジ ■3段階レベル別正課英語授業	■特別講座アセスメント（4技能） ■正課英語授業 ■プレイスメントテスト ■アチーブメントテスト（2技能）
キャリア セクション	■NUA高度就業力養成講座（ハイパワー講座） ※キャリア講座Ⅲ、Ⅳとして展開 ●経営者／大手企業社員が語る部 ●卒業生セッションの部 ●面接対策パーソナル講座の部　ほか	■学修支援センター ●リメディアル教育（国・数・理） ●高大接続教育プログラム ■企業からのオファーサイトにてポートフォリオ作成・運用	■社会が求める「思考力」アセスメント ■思考力アセスメント活用講座

Worldea オナーズ プログラム

Worldea プログラムの中でも気になるのが、努力の認められた学生を対象に行われるオナーズ（選抜者）向けのプログラム。音楽、人間発達では、その内容が一部明らかにされています。現在、各領域ではどんなことをやろうか検討中。そこで、キーパーソンとなりそうな先生に、どんなことを考えているのか聞いてみました。

世界で活躍できる音楽家を育成する

音楽領域

鍵盤楽器コース 学長補佐
名古屋音楽学校 副学校長
山田敏裕 教授

音楽領域では、Worldeaの構想が出てくる前からこうしたプログラムをスタートさせています。2018年9月に、世界的に活躍しているピアニストの横山幸雄さんをお招きし、公開講座を行いましたが、それをきっかけにさらに本学の教育へ携わっていただきたいと交渉を進めてきました。

そうした中で、これまでの既存の音楽大学で行われている教育とは一線を画す、レベルの高い教育はできないだろうかという話になり、名古屋音楽学校も含めて幼少期からの教育システムを構築しようということになりました。目標としては、世界で活躍できるレベルのピアニスト、音楽家を育成することです。現実的に考えてみると、大学4年間の教育だけでは限界があり、幼少期からの教育が望ましいということになり、名古屋音楽学校では、早期才能開花プロジェクトとしてオーディションで10名を選抜し、この4月から取り組んでいます。

もちろん大学での教育の質の向上も図ります。マンパワーの面でも強化するため、やはり世界的に活躍する上原彩子さんをお招きし、特別レッスンなども行います。現在、ピアノに加え作曲に関しても非常に優秀な学生がおり、その学生をしっかり育成していきたいと考えています。国内で演奏できる機会を増やしたり、夏には海外へ派遣し、英語教育や交流を深めてきて欲しいと思っています。

このほかにも、大学院分室を東京に設置して幅広く教育できるような仕組み作りや、学生のみならず指導者の育成も始めています。Worldeaという枠組みの中と、その周辺でもさまざまな取り組みを行っています。

一般聴講も可能な横山幸雄氏による〈ピアノ演奏解釈〉の授業風景。ピアニストに必要な考え方、演奏法を具体的に受講者に伝えている

さまざまな経験が豊かさを育む

人間発達学部

子ども発達学科
堀場みのり 講師

海外の保育や芸術にふれることができる研修プログラムを展開します。これまでも海外語学短期研修プログラムがありましたが、さらに濃い内容のものになると思います。

今年度はハワイへ行くことになりますが、保育施設の見学や保育の体験、芸術的な建築物の見学、ホームステイなどを予定しています。保育の側面だけでなく、現地の生活や文化、スケール感の違いなど、わずかな期間かもしれませんが感じて欲しいですね。個人的には、名古屋芸大の学生は、まっすぐ過ぎるところがあって、資格を取るためであるとか、必要なことだけを勉強しているような印象を持っています。資格を取ったり、アルバイトなどで社会経験を積んだりすることも大切ですが、それだけでなく、世界の様子を知ったり、豊かに生きることの意味などを考えたりすることがとても大事で、そのきっかけになってくれればと思います。

英語でのコミュニケーションも重要です。私自身、英語の文章を読んだり、書いたりすることはあまり得意ではありませんが、海外へ行ったときは一所懸命話すようにしています。知りたいと思うことや、伝えたいという気持ちがあれば、どこまでもコミュニケーションはできるはずです。

帰って来てからは、ワークショップや北名古屋の地域の人たちに報告する機会を作ろうと準備しています。経験を積むことが大切で、いろいろなことをやって欲しいと思っています。

リズム体操部員と日本に語学研修に来たラート選手との国際交流

意欲のある学生に門戸を開く

芸術教養領域

リベラルアーツコース
芸術教養領域主任補佐
早川知江 准教授

まずは、グローバルセクション、学生全員に当てはまる部分からです。これまで、英語の授業というのは全員一律に同じクラスでやっていましたが、最近では英語力の非常に高い学生がいることが普通になってきました。そこで、今年度は4月のオリエンテーションで全員にGTEC（Global Test of English Communication）という英語のテストを受けてもらい、上位を別のクラスに分けるようにしました。昨年度までは、英語の苦手な人を基準に理解できるような授業を行っていたため、能力の高い人にとってはつまらないし、英語力も伸びない内容だったんです。これまでも優秀な学生はいたと思いますが、とてももったいないことをしたなと思います。また、英語が苦手だと思っている学生にとっても、英語力を本当に身につけようと思ったら、一から教えることができるので、とてもいいことではないかと思います。上級者には、英語でプレゼンするだとか、海外へ行くための準備講座だとか、そうした内容も準備していると聞いています。

それから、東西キャンパスで英会話ラウンジを始めています。英会話の練習をしたいと、授業外に私のところに来る学生が以前からいましたが、数が多いと対応しきれず申し訳なく思っていました。意欲のある学生にも学ぶ場所ができてよかったと思います。

芸術教養のオナーズの部分では、やはりグローバルな視野を養うということで海外派遣などを考えています。ただし、こちらがプログラムを用意するのではなく、例えば『海外の大学のサマースクールに参加＋自主研修』であるとか、『海外でインターンシップ＋自主研修』であるとか、プランを練るところから学生自身でやって欲しいと思っています。どんなことをやるか、予算はどれくらいか、帰国後はどうやって社会に還元するかなど、案を具体化して、それをプレゼンしてもらい、選抜するような形式を考えています。

英会話ラウンジ。現在のところ週1日だが、1回40分、1日5コマの講座が開催されている

ローカル、グローバルを超えて

デザイン領域

ライフスタイルデザインコース
国際交流センター長
水内智英 准教授

個人的にはWorldeaに大きな可能性を感じています。Worldという言葉にグローバルとのつながりを思い浮かべますが、世界が隅々までつながり限りなくフラットになる時代にあって、世界に通用する考えや新しい発想はローカルにこそあるのではないでしょうか。グローバルとローカルを対置して考える時代から、次のステージに移りつつあるように思います。ローカルはグローバルの部分的な現場であり、グローバルはローカルな現場の複合体で、いくつものローカルが集まった状態であるといえます。さまざまなことが発信され伝えられる現代では、ローカルな知恵や技術は瞬く間にグローバルに拡がり、グローバルな状況は常にローカルに影響しますし、また影響を受けています。そんな時代になった今、必要とされているのは「本当の価値」を編み出せる力ではないかと思います。これこそがこれからの「現代を生き抜く力」だと思います。ローカルな価値をいかにグローバルな文脈で読み取れるか、また、グローバルな情況をいかにローカルの中に見いだせるか、そうした中から本当に価値のあるものをどうやって創り出してしていくか、こうした力が今後ますます重要になってくると思います。

この力を養うためには、私がそうであったように、留学体験も一つのきっかけになると思います。ただし、ただ単に外国に出て新しい学問を学ぶということが大切なのではありません。異なった文化や背景をもつ外国人の中でいかに自分が異質な存在であるかを自覚すること、また、いかに多くの異った背景や考え方を持つ人々と出会えるか、そうした経験を得ることがとても大切だと考えます。そういう意味では、異質なものや異なった価値観があふれる芸術大学という環境は、今後の世界を拓くための基礎固めをするのにとても適した場所ではないかと思います。物理学者デヴィッド・ボームは、本当の創造的なアイデアは異なったものが出会うことでしか生まれない、と指摘しています。ローカル、グローバルという対立軸ではなく、双方が共生し議論ではなく対話すること、異なった価値観を持つものが深いコミュニケーションを続けることで、新しいアイデアが生み出されるといっています。創造には、異なった価値観にふれること、また、自身が持つ価値観の特異性を知ることがとても重要といえます。そして、それを行うための環境として、芸術大学が果たす役割は大きなものです。そうした芸術大学の機能自体を高めるプロジェクトがWorldeaではないかと思います。

デザイン領域でも、ローカルとグローバルの領分を軽く超えていけるような、そんな力を学生たちが自ら獲得できる大胆なプログラムができればと構想を練っています。

英国ロンドン大学ゴールドスミス校大学院時代、専攻科の仲間たちと

「？」から可能性を拡げる

美術領域

東京藝術大学大学院 美術研究科
グローバルアートプラクティス
専攻非常勤講師
秋吉風人 准教授　田村友一郎 准教授

秋吉：アートの世界では、特定の誰かを選んで育てるというのは、なかなか馴染まないですね。

田村：音楽は技術によるところが大きく、ある意味アスリートに近いところがありますが、美術の場合は人生経験のようなものも反映され、急に作品がよくなったりすることがあります。なので、育てるというのはちょっと違うように思います。

秋吉：今、洋画コースということもあり、絵画を中心に授業が行われていますが、今の時代、絵画だけでなくアートを全般的に捉えなければいけないようになっています。今後アーティストを一つの職業として視野に入れるならば、入学当初からペインティング以外のメディアにもっとふれられる機会が欲しいですね。

田村：洋画は、一人ひとりブースで制作していますが、まるでマンガ喫茶のブースのようです。それでは作品が小さくまとまってしまうんじゃないかと思います。環境が、思考や作品に少なからず影響します。そのあたり、上手くアテンドできればと思いますし、より多くの人がかかわるような作品作りの体制にしていきたいです。

秋吉：田村君がベルリンにいたときは、オラファー・エリアソンという世界的なアーティストのインスティチューションで1年間研修していたのですが、そのインスティチューションに付随する彼のスタジオにはスタッフが80人以上いて、1人の作品をスタッフ80人で創っていくようなスタイルでした。そういった作品の作り方が今、普通になってきている現状があります。

田村：工房があり、テクニシャンと呼ばれる専門職が多数いて作品を創ります。テクニシャンは、美術の素養が高く、作品の意図を理解してより効果的に見せるための技術を持っている人たちです。そういった人たちやキュレーターのような人たちにも来ていただいて作品にかかわってもらう。そういうことができればいいのではないかと思います。

秋吉：教えるというよりは、情報をシェアすることしかできないです。プロとして活動しているアーティストたちは、勉強するという感覚は持っていないと思うんです。興味があることに対して調べていくうちにいろいろなものに当たり、それらがつながり、誰かに何かを教えてもらうのではなく、興味のある人と情報をシェアしながら作品を作っています。そういう形にフォローできればと考えています。

田村：例えば、先生が作品を作っていくプロセスを間近で見ることができれば、作品のクオリティーについて実感を持てたりすると思います。教えるというよりは、現場で何かしらのことが起こっていく状況を見せることです。リアリティーとして体感する、そうしたことが大事だと思います。

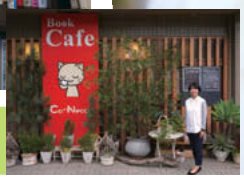
秋吉：美術というのは、いい作品にふれたときや濃い経験をしたときに発露するわけじゃないですか。そういう機会を増やしてあげることが大事ではないかと思います。

田村：今年の夏にニュージーランドの美術館の個展で発表する作品では、アメリカンコミックをひとつのツールとして扱おうと構想しています。それで、マンガを描ける人を探していたのですが、学生にマンガの上手い子がいると聞き、イメージサンプルを描いてもらいました。それをあちらの美術館の学芸員に見せたところとても評判がよく、結局、その学生に参加してもらうことになりました。こうした一見イレギュラーなことが可能性を拡げるのではと思っています。クエスチョンがあってアンサーがある、先生がいて学生がいる、そういう単純な関係性ではない、オルタナティブなコミュニケーションというか、そういう関係性がいくつかできてくれば、その中から面白いものが生まれてくるのではないかと思っています。

Worldeaと聞いても「？」ですが、「？」をポジティブに捉え、教えるというよりも制作する現場を共有するという体験が、また新たに面白いものを生む。そうした体制を恣意的に作っていけたらと思います。

今夏、ニュージーランドで展示する田村准教授の制作中の作品の一部。オリジナルのアメコミがモチーフとして使われ、洋画コース2年生の瀬古亮河さんが作画を担当している

Close up!
進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-ism



福祉とデザイン

Vol.95
NUA-OG
松永結実
（まつなが　ゆみ）

成人発達障害者支援・就労サポーター

■クリエイティブワーク×発達障害サポート 's lounge
https://s-lounge.jp/
■協力：一般社団法人 あいち発達障害サポートネットワーク
就労継続支援B型事業所 こねっこ Book Cafe Co-Necco
http://co-necco.xii.jp/

1983年　愛知県生まれ
2004年　デザイン学部 デザイン学科 ライフスタイルデザインコース卒業
2007年　大学院デザイン研究科修了
2008～11年　デザイン学部助手

支援を必要とする人のためのガイドブックやイベントのためのデザインなど、デザイナーとしての仕事も発達障害にかかわるもの

お話を伺ったのは、八事駅前にあるおしゃれなカフェ。一見、普通のおしゃれなカフェなのだが、それだけでなく、発達障害者、仕事や生活にストレスを感じている人、どこに自分の居場所を求めたらいいのかわからないといった悩みを持つ人に対して、情報を発信したり、就労の相談に乗ったり、また問題を抱える人々の交流の場でもあるカフェなのである。松永さんは、週2回、このカフェに支援員として携わっている。デザインと発達障害サポート。無関係なようで、とても関係の深いものだった。

● ● ●

「大学に入るとき、別の大学のデザイン学部と迷っていたんです。でもライフスタイルデザインコースについて先生のお話を聞いているうちに、ものを創るということ以外に、考えを深めるということでもいいんだ、それを許してくれるコースなんだとわかり、すごく可能性を感じました。クリエーターになる道だけじゃないんだと思って選択しました」

松永家は、家族がそれぞれ自分の事業を興しているという、ちょっと特殊な一家だと教えてくれた。自分からテーマを見つけ社会に発信していくことに対して、土壌があったと分析する。ご自身も、高校時代からアトリエに通いデッサンなどを始めていたが、そうしたなかで、ものを創っていくことにあまり向いていないと感じていたという。「学生時代、とにかく手が遅くて、課題に対してアウトプットするのに、コースのなかでも断然遅い方でした。苦しかったですね」。入学するときからものを創るということよりも考えること、その方向へと指向は向いていた。

● ● ●

「今の仕事につながってくるんですが、中学時代に私も不適応を起こして、学校を休みがちだったんです。学校へ行けなくなった時期がありました」。

いわゆる不登校。朝になると学校へ行けなくなる。学校で嫌な思いをしたわけでもなく、自身でも理由がわからないまま、学校へいけなくなる。

松永さんによれば、感性の豊かな人は教室の狭さや人との距離の近さで拒絶反応を引き起こすことがあるそうで、芸術大学の学生の少なくない数の人が、この症例が当てはまるのではないかという。音や目に入る情報の量、人との距離など、自分のサイズに合わせた暮らしへと調整することで、大事に至るのを防ぐことができるそうである。今でこそ、不登校は大きな問題となり研究も進んできたため、こうしたことがわかってきたが、数年前までは、甘えやたるんでいるだけなどといわれたものである。

「どうして自分が乗り越えられたのか考えてみると、大学で多様な人、多様な価値観に出会うことができたからではないかと思います。間違いなく自分の殻を破るターニングポイントになりました。大学って、本来は自分の視野を広げ深める場、モノや人との関係性を豊かにするための場だと思うんです。自分の状態を緩和したり、個性として生かせたりする環境に行くことができればいいのですが、現状では、そのことを教えてくれる人がまだ少なかったり、そういう知識がなかなか得られなかったりです。自分の経験が、今やっていることにつながってますね」。

● ● ●

在学中は、自分を掘り下げることに時間を費やした。自分のテーマを掘り下げ続けることによって、結果的に他者や社会とつながることを学んだ。

「例えば、動物にあまり関心のない人が、よく知らずに動物に関係する商品をデザインしたとします。そうすると、どこか？のあるデザインになってしまいます。こうしたことにデザイナーは責任を負わなくても済んでいます。アウトプットには責任が伴うので、自分が責任を負えること、関心を持ち続けられることをテーマにしなさいと徹底的に教えられました」。

自身の経験に基づき、自分や相談者、その環境を掘り下げて考えることは現在に大いに役立っているという。「卒業するとき、萩原周先生に『松永は、興味がプロダクトや建築に向くのではなく、いつも人に向かうんだよね。人っていったいなに？ということに。そこをちゃんとやっていけばいいんじゃないかな。』といってもらいました。その言葉が忘れられず、ずっと残っています」。福祉とデザインは遠くない。

● ● ●

デザイン学部の助手を務める間、休学する学生の増加に胸を痛めた。経済的な理由もあるが、それぞれ個人の背景をうまく生かしきれていない人が増えているような印象だという。大学を卒業すると、社会との適応に悩んでしまう人も多い。働き方改革が叫ばれる昨今だが、働くということにもっとバリエーションを増やしていかなければいけないと危惧する。「枠組みに無理に自分を合わせていくのではなく、自分の心地いい場所や自分の生活、体質に根差した働き方、睡眠時間や食事の時間など一人一人検討しながら支援をしています。理解のある企業も徐々に増えてきていますし、ロールモデルをもっと増やしていきたいと取り組んでいます」

現在は、お話を伺っているカフェのほか、名古屋工業大学とのサポートツール共同開発、岐阜県発達障害者支援センターで教育、福祉、医療分野などの専門家が集まって行うプログラム開発、そのプログラムを医療機関へフィードバックする仕事など、発達障害者支援にさまざま形で携わっている。設計してプロダクトなり建築物なりを創るのではなく、人の事情を加味し、組織や人の関連性を合理的な形に置き直す。まさしくデザインの仕事といえよう。「常識をつねに問い直しながら、そこに新しい価値を付加する。既存の価値観に揺さぶりをかけること。デザインで学んだことが今の仕事にも生きていますよ」。

もしも、うまくいかないと悩んでいたり、こうした業務に興味があったりするようであれば、ぜひ、Book Cafe Co-Neccoを訪れるか、「当事者会」というキーワードで検索して欲しいと付け加えてくれた。そして、一人でも多くの人の悩みを何とかしたいと強く語った。

当事者会　検索

自分で新しいことを

2018年5月18日、名古屋ボトムラインで開催されたcobaさん主催のライブイベント「Bellows Lovers Night」の名古屋公演後にcobaさんと。

10km -L.Fancelli
2018年5月18日開催
coba氏主催
Bellows Lovers Night名古屋公演にて

2017年10月、第7回JAA国際アコーディオンコンクール第一位受賞。「3回目のチャレンジでやっと1位を取れたことに嬉しい反面ほっとした気持ちもありました。達成感もありましたし、何より親が喜んでいる姿を見て、少しは親孝行出来たかなと思いました。」

ライブ会場は元写真スタジオで、壁も天井も真っ白。そこに映像を流して、映像に合わせて弾くような演出に。

多彩な音色 魅力伝えたい

アコーディオン奏者・橘川宗明さん(20)

ワンマンライブの様子が2019年5月19日(日)の朝日新聞「令和の旗手たち 多彩な音色 魅力伝えたい」という記事として紹介されました。

Vol.96
NUA-Student

橘川宗明

(きつかわ　むねあき)

芸術学部 芸術学科 音楽領域
ポップス・ロック&
パフォーマンスコース 3年

–アコーディオンが専門なんだよね。始めたきっかけは?

祖父が趣味でアコーディオンをやっていて、弾いているところを見ていましたし、発表会なども見に行きました。ピアノよりもアコーディオンのほうが、ずっと身近な楽器でした。祖父はもう亡くなってしまいましたが、祖母に「アコーディオンをやりたいようならやらせてやって」と話していたそうで、その話を聞いて習い始めました。たまたま、祖父が通っていた教室が、アコーディオン奏者のcobaさんが若い頃に教わっていた先生の教室で、そういうご縁があって、そこに通うことになりました。

–アコーディオンのイメージはどう? cobaさんのイメージがあると、けっこうイケてる感じ?

いろんなジャンル、オールジャンル弾けるというイメージですね。よく「小さなオーケストラ」といわれますが、右に鍵盤、左にボタンがあって、音色を両方変えられるんです。弾ける曲の幅が広いですし、ひとりで伴奏ができます。演歌から、ジャズ、ポップス、最近では、いろんなジャンルで使われるようになってきています。

–大学に入るまでは、どんな音楽をやっていたの?

アコーディオンの作曲家が作ったアコーディオンのための楽曲、アコーディオンのトラディショナル的な楽曲ですね。

–アコーディオンのための楽曲! 有名な曲ってあるの?

どうでしょう。みんなが知ってるようなのはないんじゃないですかね。ピアノはみんな、バッハやモーツァルトの曲を知っていますけど、アコーディオンの有名な作曲家は楽器の知名度的にもそんなに知られてないですよね。ポップスやジャズなどは大学に入るまでは全然やっていなかったです。

–ピアノだと途中でみんな嫌になったりするんだけど、どうだった?

ありますよ、普通に。もうやめたいと思ったこともありましたし。JAA(日本アコーディオン協会)のコンクールに3回出ているんですけど、2回目に、アメリカ人の子に負けたときは、一撃を食らった感じがありましたね。自分としては万全の状態で臨んだつもりだったんですが、やはり「世界」となると、自分の実力のなさというか技量のなさ、聴いていてわかる差があってダメだと。普通に泣きました。自分のことをジュニアでは最強だと思っていましたから。

–これから先、プロを目指すんだよね。どんな曲をやっていきたい?

ポップスの世界でもアコーディオンがだんだん使われるようになってきて、CMなんかにも使われていますし、そういうところも弾いていけたらいいなと思っています。ジャズも頑張りたいし。絞らずにオールラウンダーで、何でも弾ける人になりたいですし、何か新しいことにもチャレンジしなきゃなと思っています。楽曲だけでなく、自分で自分のアコーディオンを作りたいと考えているんです。型も音色もデザインして、自分用のアコーディオンを作って演奏する。これはまだ誰もやっていないんです。いろんなことをやっていけたらと思っています。

–アコーディオンの布教活動は? (笑)

去年ですけど、名古屋市から、小学校で「アコーディオンとは何ぞや」といったレクチャーと演奏をして欲しいという依頼が来まして、やらせていただきました。小学生の子たちが、とても喜んでくれてよかったです。お客さんの前で演奏するときには、時と場所に応じて選曲を変えるようにしていますが、小学校なので童謡を入れたりしました。「小学校にあるアコーディオンは、赤や緑できれいなやつだと思うけど、僕が使ってるのは左側にベースボタンが付いていて楽器の重さも違うんだよ」というところから始まって、「左手がある分、弾ける曲もたくさんある」ということを一から説明しました。

–そんな依頼が来るんだ!

ほかの楽器でもそうなんですが、コンクールに優勝すると、学校でNEWSとして取り上げられたりするじゃないですか。それを見て仕事のオファーが来たりしますので、本当に感謝です。

演奏でいえば、先日、初めてワンマンライブをやったんですけど、そのときも、これまでにないようなことをやりたいと、いろいろなことをやりました。ホールではなく、もともとは写真スタジオだったところで、壁も天井も真っ白なんです。白いので、そこに映像を流して、映像に合わせて弾くような演出にしました。来てくれた人が、耳だけでなく、五感で感じられるような演出です。映像は、知り合いに頼んで撮影してもらいましたが、チケットを刷ったり、チラシを作ったり、衣装を選んで曲に合わせて着替えたり、全部自分でやったのでめちゃくちゃ大変でした。写真スタジオなので、照明や音響の設備もなく、照明はエンターテインメントディレクション&アートマネジメントコースの友達に手伝ってもらい、そのまた知り合いのところで借りて、搬入とかも一緒にやって、本当に大変でした。でも、裏方の仕事を知ることができて、とても勉強になりました。そういう面でも、自分でどんどん新しいことをやっていけたらなと思っています。

–ライブ、継続していけるといいね。でも、お願いするところはお願いしないとね。大学で知り合いができてよかったね!

本当によかったですよ。視野が広がりました。特に、自分はアコーディオンの曲しかやってこなかったので、クラシックをやっている人もいれば、ポップスをやっている人もいるし、それこそ照明の勉強をしていたり、ステージのマネジメントを学んだりしている人がいて、いい刺激をもらって、自分もがんばらなきゃと思いますよ。

–演奏活動も忙しそうだけど、学校の授業は? 3年生だと余裕が出てきたところかな?

それが、教職課程も取っていて、いままでで一番忙しいです。いま、先生になる気はないんですけど(笑)

–えええ! 教職、いらないでしょ(笑)

いやいやいやいや、あったほうがカッコよくないですか。何に生かせるかわからないですけど(笑)

忙しい理由は、英語の聴講もやっているからなんですよ。春休みに海外へ行って、絶対に必要だと思いました。それまで、アコーディオンが弾ければ英語はいらないだろうと思っていましたが、行ってみてわかりました。絶対にいります! 英語はマジでやらないといけないなと思ったので、授業を受けています。

–欲張りだねえ。ガンバッテ!

News & Topics ニュース&トピックス

大学総合

2019年度「名古屋芸術大学入学式」が行われました

桜の花が晴天の空に映える4月1日㈪、2019年度「名古屋芸術大学入学式」が、本学西キャンパス体育館で行われました。

大学院入学生（音楽・美術・デザイン・人間発達学研究科）と学部入学生（芸術学部〔音楽・美術・デザイン〕・人間発達学部）が着席し、その保護者の方々や来賓の皆様をお迎えした会場で、開式に先立ち、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラによる、福島弘和作曲のマーチ「春」【指揮：遠藤宏幸准教授】が式前演奏をされました。

定刻を迎え、開式のことばに続いて、竹本義明学長から学部・大学院入学生の「入学許可」が宣言されました。

この後、学長が大学を代表して出席者に式辞を述べられました。学長はお祝いの言葉と共に、名古屋芸術大学の教育理念や使命、現代を取り巻く急速なグローバル化と情報化により、境界のない新たな世界が形成されている中で、芸術文化の果たすべき役割、そして、全ての学生が社会に出て活躍ができるような教育プロジェクトとして「Worldea」を導入する事など、入学生に激励の言葉を贈られました。

続いて、入学生代表による宣誓が行われ、大学院を代表して、美術研究科の大見真里佳さん、学部を代表して、人間発達学部の纐纈眞巳さんが力強く宣誓を行いました。

1 学部・大学院入学生の「入学許可」の宣言を行う竹本義明学長
2 入学生を前に挨拶する学校法人名古屋自由学院理事長、川村大介氏
3 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラによる演奏も行われました

この後、本学の設置法人である学校法人名古屋自由学院の理事長、川村大介氏からの挨拶があり、建学の精神である「至誠奉仕」という言葉と、自分の成長のため「自分で求めなさい」という力強い言葉が贈られました。

そして、来賓の皆様のご紹介を行い、最後に、本学教員役職者を紹介して式典を終了しました。

この後、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラによる新入生歓迎演奏が行われました。曲はアルフレッド・リード作曲の「春の猟犬」で、ウィンドオーケストラの力強い音色が会場一杯に響き、芸術大学に相応しい趣のある入学式となりました。

大学総合

平成30年度 デンバー大学短期英語語学研修を実施しました

平成31年2月26日㈫～3月12日㈫までの期間、本学国際交流センターの主催により、デンバー大学（University of Denver アメリカ合衆国コロラド州）において、平成30年度デンバー大学短期英語語学研修を実施し、芸術学部及び人間発達学部の学生13人が参加しました。

本学芸術学部 芸術学科 音楽領域とデンバー大学ラモント音楽院（Lamont School of Music, University of Denver）との間には、学術交流協定を締結しており、これまで20年以上の長期にわたる音楽分野における交流に加え、平成28年度からは、同大学附属語学学校（English Language Center, University of Denver）の協力により、短期英語語学研修を実施しています。

本研修は、デンバー大学附属語学学校の特別講師による英語の授業に加え、芸術学部芸術学科各領域及び人間発達学部子ども発達学科の専門分野に関する学内・学外活動や、デンバー大学の施設見学、学生との交流等、多彩な活動で構成されており、英語語学能力の向上はもちろん、専攻分野に関する知識及び異文化交流に関する理解の増進に資する内容となっています。

また、週末には、任意参加のオプショナル・ツアーとして、コロラド・スプリングス方面1日観光、ボルダー1日観光を実施しました。

なお、平成30年度のデンバー大学短期英語語学研修においては、次のような活動を行いました。

【音楽関係】
- 実技レッスンの受講
- デンバー大学ラモント音楽院施設見学
- デンバー大学サウンド・テクノロジー研究所見学

1 研修の合間には、みんなで観光も
2 語学研修中の1コマ
3 教育関係の学内・学外活動
4 美術・デザイン関係の学内・学外活動
5 音楽関係の学内・学外活動

【美術・デザイン関係】
- デンバー大学美術・美術史学科ギャラリー見学
- デンバー市美術館見学
- アウトドア・アーツ博物館見学
- ファースト・フライデー・サンタフェ・アート・ウォーク

【教育関係】
- デンバー大学附属フィッシャー幼稚園交流訪問
- ホーリー・リッジ小学校交流訪問
- ザ・モンテソーリ・インスティテュート見学
- モンテソーリ・アカデミー・オブ・コロラド見学

【その他】
- デンバー大学の学生との交流会
- デンバー大学の日本語クラス交流訪問
- 異文化交流セミナー

大学総合

名古屋芸術大学 新入生歓迎会を行いました

2019年4月3日㈬、「名古屋芸術大学 新入生歓迎会」を行いました。これは、学部や領域を超え、感性を刺激し合える多くの仲間と出会うサークル活動や部活動を知ってもらもうため、毎年開催されています。

東キャンパス3号館ホールで行われたオープニングは、ダンスサークルの躍動感あふれるダンスで、新入生を歓迎しました。2号館のメインステージでは、Jampa Swing Orchestraや和太鼓部などがパフォーマンスを行い、新入生に活動の紹介を行いました。

本学の生徒が製作したハンドメイドのお店なども出店し、先輩たちが、芸術に向き合う日々を応援する、魅力あふれる本学の環境を紹介しました。

新入生の皆さんの大学生活が実り多く、充実したものとなるよう期待しています。

1 Jampa Swing Orchestra
2 ダンスサークル
3 吹奏楽クラブ
4 学生手作りグッズのお店も出店

音楽領域

声優アクティングコースの福満薫先生と伊相遼さん・塩澤美響さんが取材されました

「ネッツトヨタ中部」が情報誌のCheekと共に、公式LINEにて、ティーンズ向けに様々な情報を発信する企画のなかで、本学の声優アクティングコースが紹介されました。

「憧れの職業・声優になるには？」というテーマのもと、声優アクティングコースの講師の福満薫先生と学生の伊相遼さん・塩澤美響さんが取材され、「声優になりたいと思ったきっかけ」や「どんな授業が行われているか」などが語られました。

伊相遼さん・塩澤美響さんが声優を担当する、本学の学生によるアニメーション短編映画「COLORS」の紹介もされてます。2019年冬の公開予定ですのでお楽しみに！！

アニメーション短編映画「COLORS」

「憧れの職業・声優になるには？」

デザイン領域

テキスタイルデザインコース名古屋タカシマヤの「布仕事マルシェ」に出店しました

2019年4月17日㈬～23日㈫、JR名古屋タカシマヤ10階催会場「布仕事マルシェ」にて、本学デザイン領域 テキスタイルコースの学生が、織物組織からデザインし、尾州産地協力のもと製織した生地の販売を行いました。

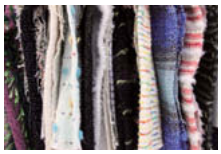
テキスタイルコースでは、尾州産地との産学連携プロジェクトを行っております。テキスタイルデザインコースでは、3年生全員が、尾州の機屋さんとオリジナルの生地をつくるという、とても贅沢な産学連携授業を毎年行っており、出来上がった生地は、東京青山で行われる、ファッションデザイナーが集まる受注展示会に出品されます。今回はJR名古屋タカシマヤで、一般の方々に学生の生地を販売する。という初めての試みでした。これらの生地は、学生たちが一人一人コンセプトを決め、色や質感、デザインなど1から考えていきます。

当日、会場にいたテキスタイルコース 4年の中嶋すみれさんは、「雪の中の金閣寺」をイメージして生地を作りました。まっしろな雪に包まれた神々しい金閣の美しさを、テキスタイルに落としこむため、金閣をキラキラした金色の素材で作成し、雪をボコボコした素材の糸で表現しました。手織りで17枚ものサンプルを織り、そのうち1枚を尾州の機屋さんに作ってもらい、この生地が出来上がりました。

その他にも、目の虹彩をイメージした布や、宇宙をイメージした布など、各学生とも、既存のテキスタイルの常識にとらわれない生地を出品していました。

お客様にとっても、1枚1枚の生地にコンセプトがある事に驚かれ、目の前の生地が歩んだ、アイデアから完成までの長い道のりを説明すると、感動してくれるお客様もみえました。

エンドユーザーに直接、自分のイメージを伝え、販売を行える今回の機会は、各学生にとって、非常に良い勉強の機会になりました。



1「雪の中の金閣寺」をイメージした生地
2 来場者に、学生たちが生地のコンセプトなどを解説
3「目の虹彩をイメージした布」を解説したパネル

名古屋芸大グループ校特集

学校法人名古屋自由学院
滝子幼稚園

みずから動き出す子どもを育てる①

「はてな？」の魅力

滝子幼稚園では、子どもがみずから動き出す姿を引き出していけるよう願いを持って、環境を整えたり、何事も主体的に取り組めるよう導入を工夫したりして保育を実践しています。その保育方法として主体性を育む合言葉「か・き・く・け・こ」を大切にしています。か：自分で考える。き：気づく。く：工夫する。け：自分で決断する。決める。こ：行動する。これらの姿を引き出していく機会を提供できるよう、時間や場の設定、保育者の言葉掛けを工夫しています。保育者は、様々なことの答えを教えるのではなく「なぜ？どうしてだろう？」と疑問符で投げ掛け、子どもと一緒に「かきくけこ」を実践することを大切にしています。

そんな日々の生活の中で子どもたちの頭に浮かぶ「はてな？」マーク、この「はてな？」が意欲や学びの姿勢を育んでいく上で重要であり、「知りたい。やってみたい。出来るようになりたい。」という好奇心や主体性を生み出していきます。今回は「はてな？」の魅力を、年中組のお便りから引用してご紹介します。

かたつむりのゆかりちゃんと卵 ～年中組の実践～

園庭のこいのぼりがさわやかな風に乗り、気持ち良さそうに泳いでいます。そして保育室でも、子ども達が作ったこいのぼりが嬉しそうに笑っています。進級し、新しいクラスになって間もなく1ヶ月が経とうとしています。環境の変化に動揺を見せる子の姿も多くみられましたが、徐々にかんな組での楽しみを感じ始めたようで、朝や帰りの会でのなぞなぞを楽しみに集まってきたり、卵を産んだかたつむりの名前をみんなで一生懸命考えたり、クラスにあるピアニカがいつ使えるのか。ラグラッセ(プール)にはいつ行けるの？この先待ち受ける、年中児ならではの出来事へ期待を持ち、小さな胸をワクワクさせている子ども達の姿をあちらこちらで見かけるようになりました。そんな一人ひとりの目の輝きが、嬉しい限りです。

さて、懇談会でもお話をさせていただきましたかたつむりの赤ちゃん。初めは「この白いの何？石？」「ごはん粒じゃない？」「うんち！」等と話していた子ども達でしたが、ある男の子が放った一言にすぐに納得。「卵じゃない？」「え？ここから赤ちゃんが生まれてくるってこと？」「きっとそうだよ！」そうであってほしい。そんな思いが込められているようでした。そうなるとすごいのが、生き物大好きなA君がすぐに調べます。保育室の絵本棚から生き物の図鑑を取り出すと迷わずかたつむりのページを開き、赤ちゃんの育て方について考え始めました。「どうしたらいいんだろう？」子ども達の頭の上に突如として現れる“はてな”ほど素敵なものはありません。その“はてな”を何とかして解決しようとする姿がまたいいですね。今後も色々な場面で頭上に“はてな”が出てくると思います。時には友達のことで。時にはクラスのことで。そしてきっと、自分のことでも。そんな時こそ話し合い！かんな組のみんなで知恵を出し合い助け合い、素敵な答えを見つけていきたいと思います。かたつむりの名前は“ゆかりちゃん”いつの間にかゆかりちゃんが、まだ始まったばかりのかんな組をひとつにしてくれました。孵化の可能性は全くの未知数ですが、赤ちゃんの誕生を信じて止まない子ども達と一緒に願いを込めて、毎日見守っていきたいと思います。

マスター to アスリート

【第45回】

＜ 自分から動く ＞

堀場みのり

（ほりば　みのり）

人間発達学部　子ども発達学科　講師

- 北名古屋市ふれあいスポーツクラブ　理事
- 豊田市体操協会　理事
- 北名古屋市ふれあいスポーツクラブ主催 短期ラート教室の開講（学内・毎年末開講）
- 同クラブ主催　親子短期教室（北名古屋市内・夏季開講）
- 西春スポーツクラブ　リフレッシュ体操教室（北名古屋市内・毎週月曜開講）
- 豊田健康体操フェスティバル　アドバイザー（豊田市内・毎年末開催）
- 全日本学生ラート競技選手権大会　審判員

1988年　愛知県生まれ
2010年　中京大学体育学部健康科学科卒業
2012年　筑波大学人間総合科学研究科 体育学専攻修了
2014年　名古屋女子大学　非常勤講師
2015年　中京大学　非常勤講師

■全日本ラート競技選手権大会
2007年　女子個人総合　第7位
2008年　女子個人総合　第4位
2009年　女子個人総合　第3位
2010年　女子個人総合　優勝
2011年　女子個人総合　第3位
2012年　女子個人総合　第3位
2013年　女子個人総合　第3位
2014年　女子個人総合　第3位
2015年　女子個人総合　第4位
2016年　女子個人総合　第6位

■世界ラート競技選手権大会
（Wheel Gymnastics World Championships）
2009年　女子個人総合　第22位
2011年　女子個人総合　第15位
（女子跳躍種目　6位入賞）
2013年　女子個人総合　第20位
2016年　女子個人総合　第20位

■世界体操祭（World Gymnaestrada）
世界体操祭　2011年、2015年　出場
日本体操祭　2011～2018年　出場

軽く階段を駆け上がる身のこなしと、撥剌とした笑顔。さすが体育の先生と感じ入る。芸術大学という枠組みの中では、教員、学生を含め、あまりいないタイプの人である。東京に住む人は、公共交通機関が発達しているために、地方に住む人よりも日常的に歩く距離が多いという。駅の構内など知らず知らずのうちに長距離を歩いていたりするらしい。一方、北名古屋をはじめとする中京地方で生活する人間にとっては、公共交通機関よりも自動車のほうが便利であることが多い。通勤、通学、ショッピング、ついクルマに頼ってしまう。電車で通学する学生はまだしも、この地域に住みクルマを使う人にとって、運動不足はじつは切実な問題といえるのではないだろうか。学生でも、音楽あるいは美術、デザイン、人間発達と、自分の進む道を決めそこに邁進する人ならば、ことさら運動のための時間を捻出することは、なかなか難しいのではないかと思う。

「ラートの世界選手権に出場すると、１週間は選手権に集中し、大会が終わると自由に１週間過ごすんです。初めて世界選手権に出場した２００９年、大学４年のときに、たまたまドイツ体操祭という大きなイベントがあり、それを見ることができたんです。そこで、体操の勉強をもっとやりたいと考えるようになりました」

ラート、本学の東キャンパスに通う学生には馴染みのあるスポーツだが、マイナーなスポーツである。最近徐々に増えてきたとはいえ、本学、筑波大学、琉球大学の３校が国内では伝統校なのである。そんなラートに出会うまでは、紆余曲折がある。幼少期には新体操、小学生時代は体操が好きで、休み時間に一人で鉄棒の練習をしているような少女だったという。面白いのは、球技が苦手で、ドッジボールの楽しさがまったくわからなかったから、球技に取り組んだということ。負けん気の強さを感じさせる。「苦手な球技を克服したくて、バスケットボールを始めました。結局、小中高とバスケをやりました」　ただし、大学では続けようと思わなかったという。「高校の時点で、私より上手い子がいて、どれだけやっても勝てないと思いました。私はシックスマン（ベンチスタートのサブメンバー。中盤でゲームの流れを変える役割が期待される選手。特別な使われ方をされることも多い）でした。試合でスパイスとしての役割は果たせたと思いますが、それ以上ではありませんでした。もともと、体操が好きなこともあり、集団競技や競うということに見切りを付けていました」　中京大学体育学部へ進学することが決まっており、より優れた選手の中でバスケットボールを続けていくことにも無理を感じていた。そんな折、出会ったのがラートだったのだ。

「体育学部へ入ってはみたものの、体育の道にすこし疑問を感じていたんですね。もっとほかにやりたいことがあるんじゃないかと。ほかにやりたいことが見つかったら学校を辞めてしまおう、それくらいの考えでした」　そこに現れたラート。大学の中の小さなサークルだった。もし大学を辞めることになったとしても、サークルの仲間たちとは仲良くできるなと考えた。さらに、もう一つの理由があった。「小学生の体操部では、“バク転”は補助の関係で練習させてもらえませんでした。やりたかったけど、憧れに終わりバスケに移ってしまったんですね。ラートを見たとき、バク転に近い動きをしているなと、小学生時代を思い出しました。１８歳、１９歳になり、身体が硬くなってきていることを感じていて、もうバク転はできないだろうと思っていたんですが、これならと（笑）」

筑波大学時代

ラート演技発表

人と交流できる運動というのが大事です。人とかかわりながら運動するというのが、本当は一番楽しいんじゃないかと思います

本学での取り組み　学生と共に全日本大会出場

やりたいことを探すつもりが、ラートにのめり込んでいった。やればやるほど楽しくなり、夢中になっているうちに大学３年の全日本選手権で第４位になり、世界選手権へ出場することが決まった。

日本代表、その実績は非常に大きなものだった。学生時代、アスリートを目指す専攻ではなく、健康科学科という指導者を育成するような専攻だったのだが、一躍トップアスリートの仲間入りを果たした形になった。友人も先生も自分に一目置くようになった。「実績の大切さは身に染みて感じましたね。正直なところ、良いと思うことも、逆に鬱陶しく感じることもありました。バク転に憧れて始めて、人の技を見て、あれをやってみたいと続けてきて、もっともっと先の世界を知って、私もあんな演技がしたいと具体的になったのが初めての世界選手権。憧れの選手がいて、その選手にすこしでも近付きたいと思ったのが２度目。でも、やってみて、やはり私のカラーじゃないと思い直し、私らしい演技がしたいなと思ったのが３度目の大会でした。「日本代表という実績のおかげで、筑波大学の大学院に進学することができ、素晴らしい環境で、

2016年世界ラート競技選手権大会　直転種目

2013年 世界ラート競技選手権大会　斜転種目

より一層ラートに励み、そして体操に対する知識や技術を習得していくことができました。今後も開拓は続きますが、間違いなくラートは自分らしい道が開けたきっかけです」

遠征先の海外で目の当たりにしたのが、運動との付き合い方だった。「２０１１年には世界体操祭に出場しましたが、ヨーロッパでは、４０代５０代の方はもちろん、８０歳くらいの方も、日常的に音楽に合わせて身体を動かしたりして、健康で楽しそうな生活を送っているように見えました。恒常的に運動のできる生活、スポーツというほどでなく、軽く身体を動かして楽しい、気持ち良い、そんなふうに感じる人をもっと増やしたい、そんなことを考えるようになりました」

身体は、感情や思考と密接な関係がある。身

世界体操祭
(World Gymnaestrada)

世界体操祭：オリンピック同様４年に１度開催される、競技を目的としない体操の祭典。演技を楽しむだけではなく、体操の価値や多面性を感じることができる。イベントを通して国際交流が図れることも魅力。

スイスの若い世代のチームによる体操競技の吊り輪を使った演技

イギリスのダウン症の人で構成されたチーム

スイスチーム70～80代

高齢者チーム（国不明）

2016年世界ラート競技選手権大会　集合写真

体を動かしていないことは、健康面のデメリットだけでなく、思考や行動にも影響しているのではないかと危惧する。「現代は、情報が簡単に手に入ります。それでおなかいっぱいになってしまい、自ら行動して欲しいものを手に入れるという経験が少なくなっているように思います。身体的なことだけでなく、自分で能動的に考え行動する、そういう部分も減っているのではないでしょうか。自主的に行動していないので、そこには薄い学びしかありません。授業の様子を見ていると、具体的な課題はこなすけれど、自由さが加わると戸惑い立ち止まってしまう学生が多く見えます。『やってみたい』を具体的に行動することに対して難しいと感じる生徒が多いことに気づきました。私の場合は、体育を通じて運動の『やってみたい』を増やし、実現に向けて行動をする癖をつける。その癖が日常生活の自主性につながることを願っています」　自分で行動することが、新しい扉を開け広い世界へ連れ出してくれたと、自身の経験を振り返る。スポーツに限った話ではなく、領域を超えて通じることである。

アート&デザインセンター 2019年度 展覧会スケジュール（予定）

7/19（金）～ 7/24（水）	●素材展（メタルコース）
7/26（金）～ 7/31（水）	●素材展（テキスタイルコース）
8/ 2（金）～ 8/ 7（水）	●陶芸・ガラス交流展
9/20（金）～ 9/25（水）	●日本画作品展
9/27（金）～10/ 2（水）	●助手展
10/ 4（金）～10/ 9（水）	●コミュニケーションアートクラス課題展
10/11（金）～10/16（水）	●彫刻&洋画1コース展
10/18（金）～10/23（水）	●大学院同時代表現研究制作展 ●スタジオ展
10/25（金）～10/30（水） 11/ 1（金）～11/ 6（水） 11/ 8（金）～11/13（水）	●美術領域　企画展（予定）
11/15（金）～11/20（水）	●MCDデパートメント2019
11/23（土）～11/27（水）	●東南アジア・インドネシア・マレーシア交流展
11/29（金）～12/ 4（水）	●メディアデザインコース展
12/ 6（金）～12/11（水）	●こどもと絵本の空間 ●後期交換留学生作品展
12/13（金）～12/18（水）	●洋画コース2・3年選抜展
12/20（金）～12/25（水）	●工芸展
1/ 6（月）～ 1/ 9（木）	●書道アート展6

※会期・内容は変更になる場合がありますので、
事前にご確認ください。
〔入場無料〕どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先／（0568）24-0325
Open/12：15～18：00（最終日は17：00まで）
木・日曜休館

2019年度 オープンキャンパス日程

■2019年　8月17日㈯　10：00～16：00
■2020年　3月　1日㈰　10：00～16：00
※卒業制作展と同時開催

ミニオープンキャンパス

2019年 9月21日（土）・22日（日）
〔開催場所：ウインクあいち〕

2019年11月2日（土）・3日（日）
〔開催場所：本学両キャンパス〕※芸大祭と同時開催

出 Books 版

教職員著作の出版物のご紹介です。
（編集期限までに報告されたもの）

■中川 直毅（著）
人間発達学部教授、キャリアセンター長
『要説 キャリアとワークルール』
●出版社／三恵社

2019年度 音楽領域演奏会スケジュール（予定）

〔2019年〕5月

第37回 音楽同窓会新人演奏会
日　時／2019年5月28日（火）18:45開演
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席　整理券あり）

7月

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団
第1回定期演奏会「コンチェルトの夕べ」
日　時／2019年7月3日（水）18:30開演
会　場／アートピアホール
入場料／無料（全自由席）

9月

トリエンナーレ ミュージカル
ジャパネスクワンダーランド
日　時／2019年9月29日（日）開演時間未定
会　場／愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料／入場料未定

10月

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団
第2回定期 ファミリーコンサート（仮称）
日　時／2019年10月20日（日）開演時間未定
会　場／名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料／無料（全自由席）

ウィンドオーケストラ第38回定期演奏会
日　時／2019年10月24日（木）18:30開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／一般500円・大学生以下無料

11月

第42回定期演奏会
日　時／2019年11月14日（木）18:00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席　整理券あり）

12月

Earth Echo 電子オルガン第22回定期演奏会
日　時／2019年12月5日（木）18:30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

室内楽の夕べ2019
日　時／2019年12月10日（火）17:30開演予定
会　場／電気文化会館　ザ・コンサートホール
入場料／無料（全自由席）

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団
第3回定期演奏会「第九」（仮称）
日　時／2019年12月19日（木）18:30開演予定
会　場／愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料／入場料未定

〔2020年〕1月

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団
第4回定期演奏会（仮称）
日　時／2020年1月31日（金）18:30開演予定
会　場／愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料／入場料未定

2月

第18回 歌曲の夕べ
日　時／2020年2月7日（金）18:30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

研究生修了演奏会
日　時／2020年2月13日（木）18:00開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

ミュージカル公演 フェアリーテールズ（予定）
日　時／2020年2月19日（水）18:00開演予定
会　場／名古屋市芸術創造センター
入場料／500円（全自由席）予定

大学院音楽研究科特別演奏会
日　時／2020年2月20日（木）18:00開演予定
会　場／名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料／無料（全自由席）

ピアノのしらべ 第24回 春のコンサート
日　時／2020年2月27日（木）17:30開演予定
会　場／熱田文化小劇場
入場料／無料（全自由席）

3月

第47回卒業演奏会
日　時／2020年3月6日（金）17:00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席　整理券あり）

ジャズポップス卒業演奏会
日　時／2020年3月7日（土）15:00開演予定
会　場／名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂
入場料／無料（全自由席）

第22回大学院音楽研究科修了演奏会
日　時／2020年3月10日（火）18:00開演予定
会　場／三井住友海上　しらかわホール
入場料／無料（全自由席　整理券あり）

オペラ公演 歌劇「フィガロの結婚」
日　時／2020年3月14日（土）開演時間未定
会　場／西文化小劇場
入場料／入場料未定
日　時／2020年3月15日（日）開演時間未定
会　場／西文化小劇場
入場料／入場料未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
●お問合せ先／名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141

チケットお取り扱い場所
●名古屋芸術大学 演奏課
Tel. 0568-24-5141
●名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
●愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
●ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
●カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939
※一部取り扱いのない公演がございます。

表紙の写真
2019年5月9日
ダンスパフォーマンスコース 特別客員教授
ケント・モリ先生公開講座

「名古屋芸大グループ通信」ウェブサイト

発　　行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報企画部
デザイン・協力：くまな工房一社
印　　刷：㈱クイックス
発　行　日：2019年7月25日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0359
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
UNIVERSITY 2017

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。